

一流を目指そうぜ!

坂本 壮

総合病院 国保旭中央病院 救急救命科

“どーせやるなら その道の一流を
目指そうぜ” (漫画『宇宙兄弟』13巻
#125「一流のパイロット」より)



私は救急救命士だ。現在は主に救急外
来 (ER) で研修医と共にさまざまな
主訴の患者の初療に従事している。

ER で仕事をしていると、出血を認める患者さ
んを毎日のように診る。事故や転倒、転落などの
外傷患者、吐血や下血、血便などの消化管出血患
者、その他鼻血や喀血、血尿等々、“血”を見ない
日はありえない。

圧迫が可能な部位では圧迫止血が原則だが、頭
蓋内や消化管、さらには腹腔内出血など手が届か
ない部位の出血ではそうはいかない。それが故に
脳外科医、消化器内科医など、専門医に処置を依
頼することも多い。

「将来どうするんだ?」、「専門は?」、「救急な
んで根本的な解決できないでしょ?」。救急救命士に
なろうとした時、そしてなった後も、よく言われ
た台詞だ (それは今でも、である…)

確かに私は食道静脈瘤からの出血でショックと
なっている患者さんの止血処置はできないし、腹
腔内出血患者の緊急手術もできない。他にもでき
ないことだらけではある。若かりし頃、ER を受
診した患者さんの方向性をつけ、専門科にバトン
タッチをする際に、もどかしい思いをしたことも
少なくない。



しかし、今の私は少し違う。

たとえば、上部消化管出血疑い患
者さんが来院した場合に「重要なこ
とは何だろうか?」、「すぐに内視鏡
検査ができれば問題ないのだろ
うか?」、「内視鏡ができない環境下で

も、できることはないのだろうか?」、「抗血栓薬
を内服していたら?」、「PPI の投与は?」、「輸血
は?」、「そもそもなぜ吐血したのか?」、「本当に
上部消化管出血なのか?」等々、いろいろと考
えることがあるわけだ。

さらに、出血を認めている場合には、止血が確
認できるまでは抗血栓薬を中止するのは誰もが納
得するところであるが、「いつ再開するべきなの
か?」は明確な基準があるようで、実はない。多
くのことを限られた時間内で判断する必要があり、
初療医の腕の見せ所である。



冒頭の言葉は私が愛してやまない漫画『宇宙兄
弟』で、主人公南波六太に対しての、教官デニ
ール・ヤングの台詞である。救急救命士として根本的な
治療解決は、できないことも少なくない。しか
し、“今何をやるべきか?” についての的確に判断
し、あらゆる患者への対応を “It's a piece of
cake !” と笑顔で対処できるよう、一流を目指し
ていきたい。

出血大サービスのこの企画、ご賞味あれ!